

# わがまちの「ちよつといい話」

NO. 2

「道德のまち笠松」推進会議  
(笠松町教育文化課)

## 〇ゴミを拾う心

九月二八日、柳津駅を起点とし笠松駅をゴールとする「名鉄ウオーク」が開催されました。当日、約二千五百人の方々で笠松町は一日にぎわいました。

お訪ねいただく方々を「もてなしの心」でお迎えしようと町内の多くの方がボランティア活動に参加しました。その取り組みの一つに、前日、コースに沿ってゴミを拾うグループがありました。町をきれいにし、気持よくお迎えしたいと願う道德のまち笠松推進会議の有志の方々でした。

## 〇自らきれいなまちを

ゴミ拾いの中で、民家の多い場所では、比較的ゴミが少なくきれいでした。人が生活すれば、ゴミは必ずです。

## 捨る姿がポイ捨てる心を見つめるきっかけに！

しかし、きれいです。住む人がゴミを捨てることはありません。しかし、通りすがりの人がうっかり落としたり、ポイと捨てたり風に飛ばされてきたりするゴミは後を絶ちません。

こうしたゴミは、大きくはありませんが目に付きまします。目についた「ゴミを見過」さないで、すぐに拾う。掃きとる。きれいな住みよいまちにしたいという気持ちが行動となり、習慣となります。

だからきれいなのです。これが、このまちで生活する人の心です。家の中だけでなく、家の前やまわりにも気を配ります。ゴミに気づけば、まず拾って片づけます。

## 〇ゴミを拾う姿は語る

ゴミを拾ったり、掃きとったりする

行動を通して、「自分はゴミを捨てない。」と自らに言い聞かせ、同時にゴミを捨てる人には、「ゴミを捨てないで。」「吸い殻のポイ捨てはやめて。」と声にこそ出さないが、姿で語りかけています。町内で見かけるゴミを拾う人の姿が、さらに増えれば、ゴミを捨てる心を抑え、拾う心がさらに育まれ、まちはいつそうきれいになります。



みなと公園でタバコの吸い殻などを拾う